

戦国の世から江戸の世へ	( )組	氏
	( )番	名

あきらさんのクラスでは、「戦国の世から江戸の世へ」の学習のまとめとして、「自分が3代将軍の徳川家光になったつもりで、祖父の徳川家康あてに手紙を書こう！」ということになり、あきらさんは下の資料1～資料5などを集め、次の手紙を書いています。

あきらさんの書いた手紙（一部）

徳川家康 様へ

徳川家光より

私は、おじいさんが江戸に開いた幕府の力をさらに安定させ、戦乱のない世の中が続いていくように願い、いろいろなことを行いました。

例えば、おじいさんの頃に各大名が自主的に行っていたことを制度化して、多くの大名に対して、㊦ 江戸と自分の領地を1年おきに交代で勤務し、江戸に勤務する時は（ A ）月中に江戸に来させるようにしました。この制度は、大名たちが幕府に忠誠を示すようになるのに役立ったと思います。

また、㊧ 戦国時代が終わって戦乱のない平和な時代となったことで、大名たちには、「戦いに勝って自分の領土を広げようとするのではなく、㊨ 自分の藩を豊かにすることに力を入れるようになって欲しい。」と期待しています。

(1) 手紙中の下線部㊦の制度を何というか書きましょう。

(2) 右の資料1は、日向国（今の宮崎県）の、高鍋藩と飫肥藩から江戸までの、大名たちの移動についてまとめたものです。資料1をもとに、上の手紙中の（ A ）が何月なのかを書きましょう。

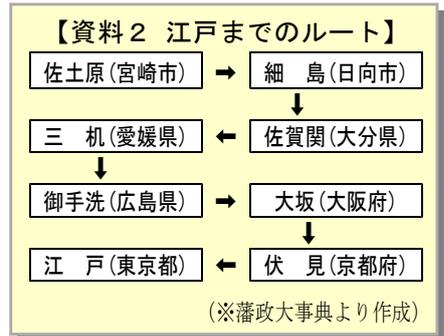
月

**【資料1 江戸までの移動】**

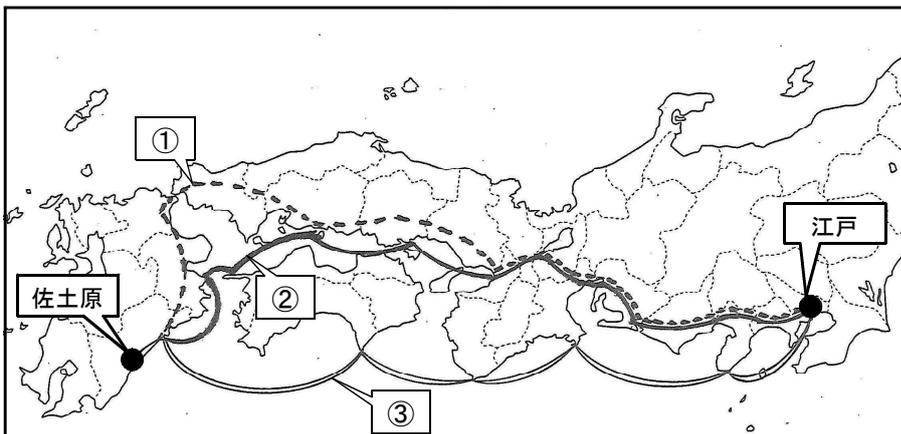
藩の名	出発日	かかった日数
高鍋藩	3月3日	約40日
飫肥藩	3月1日	約40日

（※藩政大事典、宮崎県史より作成）

(3) 右の資料2は、日向国（今の宮崎県）の、佐土原藩の大名が江戸に行くときのルートです。資料2をもとに、佐土原から江戸までのルートとして適するものを、次の図の①～③から1つ選び、記号で答えましょう。



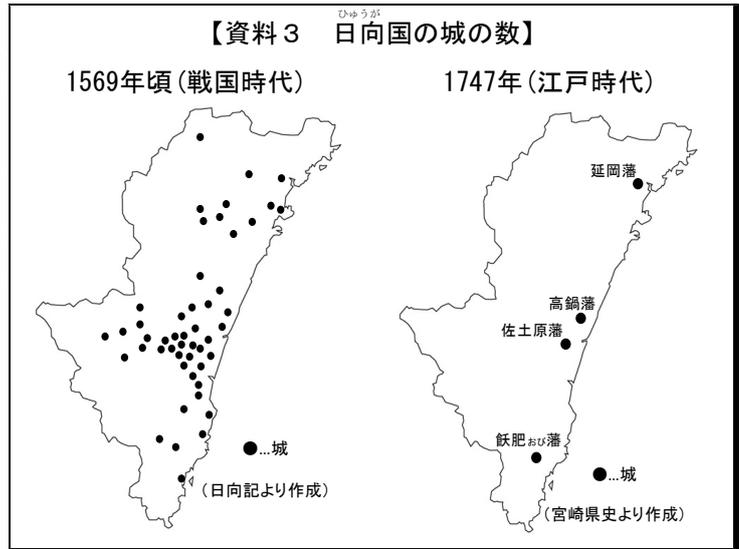
【図 佐土原から江戸までのルート】



（※宮崎県史より作成）

(4) あきらさんは、前の手紙中の下線部④について調べる中で、右の資料3を見つけ、戦国時代にはたくさんあった城が、江戸時代には4つに減っていることに気付きました。

その理由を説明するときを使う資料として、最も適するものを、下の①～③から1つ選び、番号を書きましょう。

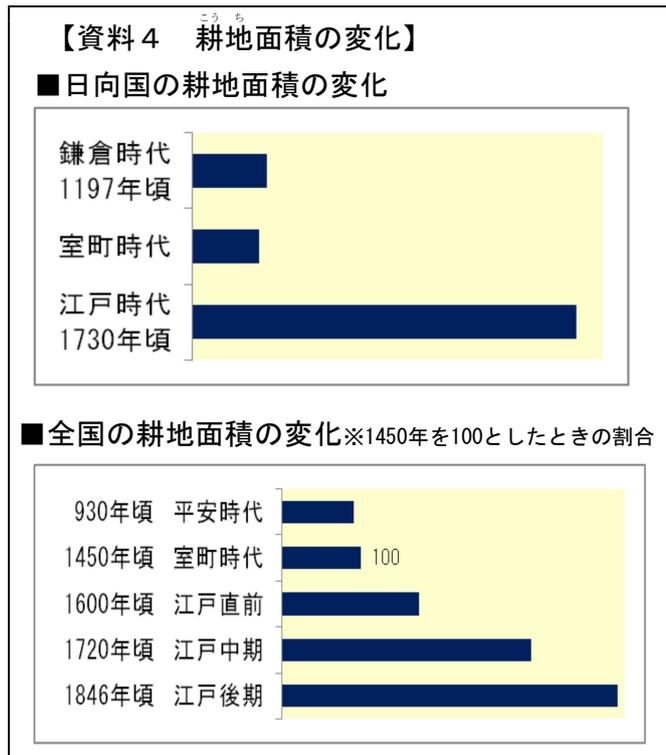


① 諸国の城は、修理するときは必ず届け出ること。  
ましてや城の新築は絶対にしてはならない。

② 一国(藩)においては、大名が居住あるいは藩の政治を行う城1つを残して、その城はすべて廃城とすること。

③ 最近、屋敷の建設などがぜいたくになってきているので、今後はぜいたくにならないよう心がけること。

(5) あきらさんは、前の手紙中の下線部⑤について、下の資料4を見つけ、「江戸時代になってから、全国・宮崎ともに耕地面積が急激に増えている」ことに気づきました。資料4と資料5とを関連づけながら、その理由を考えて書きましょう。



【資料5 江戸時代の用水開発(日向国)】

時代	年代	用水などの開発
鎌倉	1185年	前田堰・小井手堰(都城市)
室町	1248年	稚児殿池(西都市)
江	1640年	松井用水路(宮崎市)
	1685年	南前用水路(都城市)
	1701年	木森井堰(国富町)
	1713年	堂本井堰(えびの市)
戸	1722年	杉安井堰(西都市)
	1734年	岩熊井堰(延岡市)
	1845年	五ヶ所用水(高千穂町)

※井堰(いぜき)…流水をせき止めるための建造物

(※資料4は、宮崎県史、国土交通省資料、学びえる歴史より作成)  
(※資料5は、宮崎県土地改良史より作成)